

対馬へのスタディツアー-実施報告書

平成 27 年8月21日

宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)は、宇部市の委託を受けて、市内の中学生を対象とした対馬へのスタディツアーを催行した。対馬市(長崎県)は環境王国と呼ばれるほど自然豊かな国境の島であり、宇部市では体験・学習できない点も多い。そこで今回は、「ツシマヤマネコの棲む森林に学ぶ生物多様性」や生き物の繋がりや、漂着ゴミなどについて学習すると共に、自然と触れ合い楽しいひとときを過ごしてきたのでその概要を報告します。

- 日程 : 平成 27 年8月 5 日(水)～8月 7 日(金)
- 参加者 : 応募中学生10名+スタッフ 2 名+市職員 1 名 (合計13名)
- 参加費 : 20,000 円/人
- 主な見学先 : 和多都美神社、烏帽子岳、対馬クリーンセンター中部中継所(発泡スチロールリサイクル施設)、韓国展望所、舟志の森(ヤマネコ痕跡調査)、そば打ち体験、棹崎公園海岸(漂着ゴミ調査)、対馬野生生物保護センター、万関橋、厳原町内史跡散策、長崎県立対馬歴史民俗資料館、万松院

【ツアー概要】

8月5日(水)

宇部市役所前で出発式を行い、森環境政策課長及び宇部市地球温暖化対策ネットワークの仰木事務局長の挨拶と激励の言葉を受けました。

その後、参加者一同で記念写真を撮り、宇部市営バスにて山陽自動車道・九州自動車道・都市高速を経て、一路博多港へ向かいました。

車中では、市内各中学校から集まった1～3年生の男女(各5名)が、改めて自己紹介しあって、今回のツアーの楽しみどころなどを話し合いました。



財部対馬市長表敬訪問(市長室)



宇部市役所前の記念撮影

博多港から対馬の厳原(いづはら)港まで、2時間 20 分。穏やかな天候に恵まれて、揺れもほとんどなく、快適な船旅が楽しめました。厳原港では対馬市役所の市民協働・自然共生課職員の出迎えを受けました。

上陸後、市役所に行き、財部(たからべ)市長を訪問し、スタディツアーとしての対馬訪問の挨拶をしました。市長からは、ツシマヤマネコや漂着ゴミなどしっかりと学習するとともに、環境王国対馬を存分に楽しむようにとの言葉を頂きました。

市長表敬訪問後、早速、バスに乗り込み、国道382号を北上し、まず豊玉(とよたま)姫と山幸彦(やまさちひこ)の伝説で有名な和多都美(わだつみ)神社を訪れました。ここは古くから竜宮伝説が残されており、5つの鳥居の内、2つは海中にあるという対馬で最も有名な観光地の1つです。



海中の鳥居を背景にして



鳥帽子岳展望台

和多都美神社を出発して島の中央付近に位置する鳥帽子岳(えぼしだけ)展望台に立ち寄り、海に浮かぶ大小無数の島々やアラス式海岸の美しい浅茅(あそう)湾と幾重にも重なる山々の360度の展望を満喫しました。

次に私たちは対馬クリーンセンター中部中継所を訪れて、翌日に学習する予定の漂着ごみ(発泡スチロール)を蒸発・液化してリサイクルする施設を見学しました。ここで、リサイクルの作業工程を学習すると共に、ゴミを島外に持ち出さずに島内でリサイクルする意味を学び、全員が実際に原材料スチロールを施設内に投入して、身をもってリサイクル作業を体験しました。



施設見学及び原材料投入体験



韓国展望所

ついで初日の最後の訪問地である、対馬の最北端の上対馬町・鰐浦(わにうら)という所にある“韓国展望所”を訪問しました。ここから韓国の釜山(プサン)まで約50kmしかなく、よく晴れ日には釜山の街並みが望める所です。私たちが訪れたのは、真夏の猛暑日だったので、残念ながら韓国を見ることはできませんでした。また付近に自生する環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているヒツバタゴ(別名はナンジャモンジャ)を見て本日の学習を終えました。

宇部を7時過ぎに出発し、観光バス、高速船（ジェットfoil）、再び観光バスと乗り継いで、猛暑の中、見学地4か所を巡って、ようやく、6時過ぎに対馬の北端に近い比田勝（ひたかつ）港近辺に位置する宿舎（花海荘）に到着しました。

ここで水俣市から同じくスタディツアーで対馬を訪れている中学生の一行と合流し、合同夕食会を行いました。水俣市及び宇部市からお互いのまちのことを語り合いましたと挨拶を交わした後、第7回「B-1 グランプリ」で「シルバーグランプリ」を獲得した『対馬とんちゃん』やサザエなどの海鮮物などのバーベキュー料理に舌鼓を打ち、時を忘れた歓談が続きました。



宿舎のテラスでのバーベキュー料理

8月6日(木)



上段 : 舟志の森で説明に聞き入る参加者
 下段左 : 無人自動撮影カメラの説明
 下段右 : ツシマヤマネコの糞を発見！

スタディツアー-第2日目は舟志（しゅうし）の森へ行き、今回のツアーの目玉の1つであるツシマヤマネコの痕跡調査を行いました。この調査にはかつて、野生生物保護センターに勤務し、NHKの番組（ダーウィンがきた！）にも出演された対馬市役所の職員の方が同行され、DVDで事前学習した無人自動撮影カメラの構造や、他の動物類との糞（ふん）の違いなど興味深い話を伺う事が出来ました。なかなかツシマヤマネコの痕（ふん）跡を見つけることが出来ませんでした。調査が終わる頃に、やっとそれらしいものを見つけて一同興奮しました。

また、舟志の森におけるツシマヤマネコの棲みやすい環境作りのその苦勞や成果（効果）などの話を聞き、一同、感心しました。

【注記】ツシマヤマネコは環境省の哺乳類レッドリスト(*1)において 絶滅の恐れが最も高い絶滅危惧種 IA (CR) *2 とされています。

*1: 環境省が公表した哺乳類の絶滅危惧の度合いを評価しリストにまとめたもの

*2: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

そばは対馬の名物の1つですが、舟志の森での痕跡調査の後、そば打ち体験をしました。殆ど全員がそばを打つのは初めての経験で、大変興味深く、楽しい経験となりました。

そして、自分で打ったそばを“いりやきそば”や“ざるそば”に料理してもらい、不揃いながら、昼食として美味しく頂きました。



そば打ち体験風景



棹崎海岸：漂着ゴミ調査

昼食後、棹崎海岸へ行き、漂着ゴミの調査をしました。対馬市役所の自然共生課の課長さんの説明では漂着ゴミは例年に較べてそれほど多くないということでしたが、私たちの眼には海岸は、ゴミに埋もれている様に映りました。

ここで、私たちは対馬全体で漂着ごみが年間15,000立方メートルに達するという話を聞き、どのようなゴミが多いのか、またビンや缶などには何語は書かれ、どこから漂着したと推定されるのか、自分なりに出来る範囲で調査しました。また、8月23日には島内外ボランティア参加者と韓国の学生などが共同で一斉清掃作業を行う予定という話を聞き、少しだけ安心しました。

対馬野生生物保護センターには、予定していた時間より少し早く着いたので、最初に各自、館内の展示物を自由に見て回り、保護センター内で飼育されているツシマヤマネコの「福馬(ふくま)君」も見学しました。野外ではめったに見る事ができない本物のツシマヤマネコを見る事ができて、貴重な姿をみんなでカメラに収めました。

また、猪などを捕獲するわな(トラバサミ)にかかる様子を動物の足に見立てた丸棒を使って体験したり、対馬の自然を模した3つのジオラマコーナーの中に隠れている蛇や蟬(せみ)の抜けがらなどの様々な動植物を探すゲームに熱中し、あっという間に時間が過ぎて行きました。

自由見学の後、保護センターの説明員の方から講義を受けました。この時、普通のネコとツシマヤマネコの違いを質問されましたが何度も学習したことなので、幾つかの特徴を比較的スムーズに答えることが出来ました。

また、中の見えないダンボール箱に入ったものを触手して答えるゲームではみんなおそろおそろ触って、何かいるのか考えましたが、中には大声で「キャー！」と叫ぶ者もいて、みんなで大笑いしました。種を明かして貰うとツシマヤマネコの毛皮で、普通ではめったに触れることの出来ない貴重なものでした。講義を終えて再び福馬君を見て、保護センターの見学を終わりました。



上段：ツシマヤマネコの毛皮を見せる説明員
中段：ツシマヤマネコの説明風景
下段：ツシマヤマネコ(福馬君)の写真



万関橋を徒歩で渡る

保護センターの見学を終えて、宿舎のある巖原町へ巖原町へ針路をとり、国道 382 号を南下しました。途中の万関(まんぜき)橋でトイレ休憩を兼ねて、停車し、橋を徒歩で渡りました。

ここは 1900 年(明治 33 年)に旧日本海軍が艦船を通すために開削したという水道に架かる橋で、対馬の上島と下島を結ぶ橋となっており、現在の橋は3代目にあたり、平成8年に架けられたもので橋長 210m だそうです。

万関橋を渡ると、もう目指す巖原町まではバスで 1 時間足らずの距離。舟志の森、棹崎海岸と炎天下の中の調査・見学を続けてきて、疲れ切った身体で 6 時過ぎに 2 日目の宿(丸屋ホテル)に到着しました。入浴後、郷土料理の“石焼き”に舌鼓みを打ちました。これは元々、豪快な漁師料理から始まったもので、対馬近海で取れた新鮮な魚介類を大きな石塊の上で焼いて食べる料理で、地元では、冠婚葬祭や各種行事などの際によく振る舞われる郷土料理だそうです。



8月7日(金)



最終日の3日目は、対馬の中心地である巖原町内の史跡めぐりをしました。ことしの5月に完成したばかりの『ふれあい処つしま』を訪れ、ここから“対馬観光ガイドの会・やんこも”の方の案内で、文化財に指定されている今屋敷地区の石造りの防火壁や朝鮮通信使の一行が上陸した船着き場を回り、その後対馬歴史民俗資料館に入館しました。ここで、江戸時代に作られた対馬の地図の正確さや対馬藩は日本で最初に通訳の専門家を養成していたという話を聞いて驚きました。

左上段： 朝鮮通信使の上陸場見学

左下段： 今屋敷地区の防火壁(石垣)

歴史民俗資料館を出て、対馬の藩主であった“宗家”の菩提寺である万松院に行きました。

ここは金沢の前田家、萩の毛利家の墓とともに日本の三大墓地と言われているお寺だそうです。

132段の石段は、猛暑で弱り気味の体には少しきつかったけれども登り切った所の杉木立のなかに、墓所である巨大な五輪塔が見え、静寂さの中に少しだけ涼しさを感じ取ることが出来ました。

また、お寺の中には徳川家歴代将軍の位牌や朝鮮国王から贈られた品物などが公開されており大変興味深く、勉強になりました。



上段：歴史民俗資料館
中段：万松院の石段
下段：万松院山門前に記念写真



昼食場所前での記念撮影

厳原(史跡)めぐりですべての見学を終えて、ふれあい処つしまを集合場所にして昼食時間まで自由散策やお土産のショッピングを楽しんで頂きました。

再集合の後、対馬での最後の食事(さざえ飯・ろくべえ)を頂きました。ろくべえというのはサツマイモを主原料とする麺料理で、魚介や地鶏などでダシを取った澄まし汁に入れて食する対馬の郷土料理だそうです。今回のツアーでは初日から最終日までの3日間、毎日対馬の郷土料理や名物料理を食べていたこととなります。

7日の夕刻、定刻通りに無事宇部市役所前に到着しました。市役所の玄関前で、環境政策課の皆さんやUNCCAの事務局長、そして家族の皆さんの出迎えを受けました。

市役所 環境政策課の川崎課長補佐さんからねぎらいの言葉を頂き、解散式を行って、それぞれ帰路につきました。

今回のツアーは、旅行前は台風の到来も心配されましたが、旅行中に好天に恵まれました。その分、真夏の炎天下での痕跡調査などの野外活動で熱中症が強く懸念されました。

しかし、全員暑さに負けず、食欲に学習し、楽しい思い出を抱いて戻ることが出来ました。



宇部市役所前での解散式写真